

2016年度 湘南藤沢学会「研究助成金」成果報告書

政策・メディア研究科特任准教授

関 智子

活動名称

国際社会における次世代リーダー教育の研究
——ウィルダネスを舞台としたアメリカ型学際教育の側面から

本研究の目的

わが国における次世代リーダー教育の開発のために、アメリカ文化の基盤とされる「ウィルダネス(原生自然)」を舞台としたハイインパクトな学際教育の在り方に着目し、1)カリフォルニア州 Muir Woods National Monument にて、アメリカ内務省国立公園局が行っている Volunteers-In-Parks (VIP) というボランティアシステムの視察とヒアリング 2) 米・アイダホ州 University of Idaho 主導の学際コース、Semester in the Wild (2016年8月下旬～11月中旬に展開)に参加し、それぞれの指導者へのヒアリングを実施することを目的とした。

調査内容

- 期 日:平成9月16日(金)～18日(日)
場 所:カリフォルニア州 Muir Woods National Monument
内 容:VIP システムの詳細、研修内容に関するヒアリング、インタープリテーションプログラムの視察
- 期 日:平成26年9月21日(火)～25日(土)
場 所:アイダホ州 Taylor Wilderness Research Station
内 容:Semester プログラムの構成、指導内容と方法、受講学生の反応等に関する視察およびヒアリング

得られた成果

本研究が対象とした国立公園局のボランティアシステムおよび University of Idaho 主催の学際教育プログラムは、学術的な側面や自然環境に関する学びに留まらず、ウィルダネスの中でアメリカ人の根幹をなす自主独立の気概を啓発すると思われる。日本人もこうしたプログラムに参加し、国際感覚とリーダーの素養を身に着けることが望ましいと感じた。また、わが国の教育プログラムを再検討するに値する基礎資料を得ることができた。

1) Volunteers-In-Parks について

Muir Woods National Monument における VIP は、この国立公園内だけではなく、Golden Gate エリアに属する約 10 国立公園との連携によって活性化しており、全米でも注目度の高い品質を保持している。応募者の採用には倍率が生じており、さらには外国からの希望者にも対応している。受け入れられた場合は、無料宿舎と安価ではあるが食費があてがわれ、熟練した正職員の指導の下、公園管理・運営にかかる多様な仕事に貢献することができる。



本調査では、最も人気の高い職種であるインタープリター(個々の知性と話術を武器に、ビジターに対して国立公園にまつわる多様なトークを行い、人々を啓発する仕事を担当)を中心に、その業務の現場や研修システム等について知見を深めることができた。

2) Semester in the Wild 2016 について



9名の小グループによって構成された受講学生は、主催の University of Idaho 以外にワシントン州、ウィスコン州からの参加もあり、さらに本学 SFC 学生も受け入れられ、国際色をもつグループであった。

アイダホ州のある街からセスナで 30 分移動すると、Frunk Church – River of No Return Wilderness という、道路も近隣の住人も見当

たらない原生自然エリアに到着する。今回のリサーチステーションはこの中に位置しており、エコロジー、環境ライティング、環境史、アウトドアーダーシップ、原生自然管理法、エコロジーフィールドワーク(計 15 単位)が、学生の主体的学習によって展開されている。コンタクトタイムと呼ばれる時間には、セスナでやってくる教授陣による教育プログラムと学習相談を受けることができる。

ウィルダネスにおける教育は、日常生活では覚醒しきれない人間力を発揮させ、学び、感じ、働き、発信すること、すなわちリーダーとしての資質を開花させる。日本人にとっては、アメリカのアイデンティティを理解し修得する意味もあり、国際社会におけるリーダー養成の一プロセスを内包しているとも考えることができる。

今後も研究を継続するとともに、受講学生へのヒアリングから、同プログラムの内容、成果、課題等について分析、検討を行う。年度内に紀要等に投稿する。